

フラワーデザイン専攻実習風景 《1月》

◎チューリップに植物成長剤の処理を行いました。

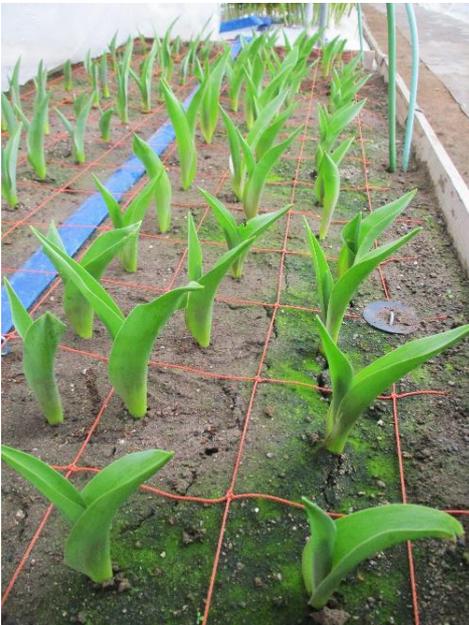
花と葉の位置をバランス良くするために花茎を伸ばす処理をします。



 が示す部分を^{かけい}花茎といいます。

花茎が短いと切り花として利用できません。

そこで、植物ホルモンの一種である「インドール酪酸」（植物成長剤）を滴下して花茎の伸長成長を促します。



↑第1葉の長さが9～10cm時期に実施します。



↑1株あたり薬液量1mlを葉の間に滴下します。

今後も品質の高い商品をお届けできるよう、管理を徹底していきます。

◎外部講師をお招きし、フラワーアレンジメントの作製技術を学びました。



今回は「花留め^{はなど}」という吸水性スポンジを使わずに花材を生けやすくする手法を学びました。

←スポンジの代わりに容器に詰めた稲わらに花材を生けます。



花材のサイズや配色のバランス、容器との調和を考えながら生けていきます。



指導をいただきながら生徒一人ひとりの感性でアレンジメントを完成することができました。来月も技術指導が予定されています。次回の作品もホームページで公開する予定です。どうぞご覧ください。